

平成 2 7 年度 千早赤阪村外部評価報告書

(評価対象：平成 2 6 年度事務事業)

平 成 2 8 年 2 月

千早赤阪村外部評価委員会

千早赤阪村長 松本昌親 様

千早赤阪村の事務事業について、千早赤阪村外部評価委員会による評価を実施し、この
たび本報告書を取りまとめましたので報告いたします。

平成28年2月2日

千早赤阪村外部評価委員会

委員長	澤	井	勝
副委員長	井	関	醇 一
委 員	岡		佐智子
委 員	清	水	幸 弘
委 員	道	田	晶 子

目 次

1. 千早赤阪村外部評価委員会の位置づけ	1
2. 外部評価委員会名簿	1
3. 平成27年度の評価実施要領	1
4. 千早赤阪村外部評価委員会の開催状況	3
5. 評価対象の事務事業及び評価結果一覧	3
6. 評価結果の概要	4
7. 今後の課題と改善への提言及び要望	7

1. 千早赤阪村外部評価委員会の位置づけ

行政評価（事務事業評価）を実施するにあたり、行政内部の自己評価に加え、第三者による評価・検証の機会を確保することにより、行政評価の透明性・客観性の向上を図り、事務事業のあり方の検証を含めた行政運営の効率化、職員の意識改革を目的として、外部評価委員会を設置し、評価（事後評価）を行う。

外部評価委員会の所掌事務は、次のとおりである。

- ・村が評価した行政評価結果について、外部の視点から評価及び検証
- ・より効率的・効果的な行政運営に向けた改善策などの意見提言

ただし、外部評価の結果については、その趣旨や意見を十分に踏まえ、庁内会議において方向性を検討し、必要に応じて施策や翌年度以降の予算編成に反映させる。

2. 外部評価委員会委員名簿

外部評価委員会は、下記の5名（村内2名、学識経験者3名）で構成されている。

【千早赤阪村外部評価委員会委員】

役職	氏名	備考
委員長	澤井 勝	奈良女子大学名誉教授
副委員長	井関 醇一	元千早赤阪村総合計画審議会副会長
委員	岡 佐智子	大谷幼稚園園長
委員	清水 幸弘	公益財団法人大阪国際平和センター業務執行理事
委員	道田 晶子	元千早赤阪村総合計画審議会委員

※任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日

3. 平成27年度の評価実施要領

○対象年度：平成26年度事務事業（事後評価）

○対象数：3事務事業

本村が実施した事務事業評価（自己評価）140事業を対象とするが、すべての事務事業を対象に外部評価することは、限られた時間と労力の点から困難な面もあるため、一定の選定基準のもと3事務事業に選定した。

○外部評価の基準：評価にあたっては、次の検討項目に基づき評価を行った。

(1) 外部評価の視点における考え方

評価項目	評価の視点
妥当性 ※施策の目的が村の政策体系に貢献しているか	・ サービス水準は高いか ・ 目的に対して手段は適切か ・ 村民のニーズはあるのか ・ 村が実施すべきか
有効性 ※効率的に進められているか	・ 目標通り成果が向上したか（今後、実績が上がる期待はあるか） ・ 村民ニーズに的確にこたえられたか ・ 村が抱えている課題の改善・解決に貢献しているか
効率性 ※期待された効果が得られているか	・ コスト削減の余地はないか ・ 利便性の向上や省力化の余地はないか ・ 資源配分（住民負担）は適切か ・ 他事業と統合・連携できないか
公平性 ※受益や負担が公平になっているか	・ 受益が一部に偏っていないか ・ 公平になっているか（負担水準は適切か） ・ 事業の意義や効果は村民の大部分に及ぶものか

(2) 総合評価

評価ヒアリングなどを踏まえ、以下のA～E判定と当該事務事業の今後の方向性に対する意見または提言を付した。

- A：「拡充」
- B：「現状維持」
- C：「見直し」
- D：「縮小」
- E：「休止・廃止」

○評価手順：

【事前準備】

①配付資料

配付資料は、会議開催前に事前に配付（配付資料について、あらかじめ事務局を通じて質疑応答）。

【会議当日】

- ① 1事業あたりの評価時間は、概要説明、質疑応答などを合わせて概ね1時間程度。
- ② 所管課からの概要説明（10分程度）
- ③ 質疑応答及び意見交換（30分程度）
 - ・ 質疑応答の冒頭は、事業内容など共通理解を図るような質疑応答
 - ・ 事業内容について委員の共通理解がおおむね図られた後は、委員の意見、感想も含めた質疑及び委員間での意見交換
- ④ 評価内容の外部評価シートへの記入及び検証（20分）
 - ・ 各委員の評価内容結果を踏まえ、総合評価の検証・総括

4. 千早赤阪村外部評価委員会の開催状況

平成27年度は外部評価委員会を1回開催し、3事務事業について審議及び外部評価報告書のまとめを行った。

委員会	日時	審議内容等	会場
第1回	11月24日(火) 14:30~17:00	①外部評価実施の進め方 ②事業評価(3事業) ・食育推進事業 ・ちびっこ老人憩いの広場維持管理事業 ・海外留学体験事業	保健センター 3階集団指導室

5. 評価対象の事務事業及び評価結果一覧

評価を行った3事務事業の方向性についての評価結果は、「拡充」とした事業が0事業(0.0%)、「現状維持」とした事業が2事業(66.6%)、「見直し」とした事業が1事業(33.3%)、「縮小」とした事業が0事業(0.0%)、「休止・廃止」とした事業が0事業(0.0%)となった。

【内部評価(自己評価)と外部評価結果比較】

方向性	内部評価(自己評価)	外部評価
A: 拡充	0(0.0%)	0(0.0%)
B: 現状維持	2(66.6%)	2(66.6%)
C: 見直し	0(0.0%)	1(33.3%)
D: 縮小	1(33.3%)	0(0.0%)
E: 休止・廃止	0(0.0%)	0(0.0%)

※外部評価の欄中、小数点第2位を四捨五入により処理。

【対象事務事業及び評価結果一覧】

番号	事務事業名	所管課	内部評価	外部評価
1	食育推進事業	健康福祉課	B: 現状維持	B: 現状維持
2	ちびっこ老人憩いの広場 維持管理事業		D: 縮小	C: 見直し
3	海外留学体験事業	教育課	B: 現状維持	B: 現状維持

6. 評価結果の概要

所管課による内部評価(自己評価)を踏まえ、外部評価委員会では、ヒアリングなど実施し、その事業の目的及び妥当性、有効性を勘案し評価を行った。その結果については次のとおりである。

事業番号：1		事務事業名：食育推進事業	所管課：健康福祉課
事務事業の概要	事業の目的	生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むため、食育関連事業を推進する。	
	事業の内容	村食育推進計画に基づき、村民や関係団体などと協働しながら食育活動に取り組むとともに、村特有の地産地消の確立や幼・小・中の一貫した教育等、健康、産業、教育・保育の各分野が相互に連携を図りながら、村の特徴ある食育を推進する。	
	事業の対象	村民	

評価結果	内部評価 (自己評価)	B	内部評価 (政策評価)	B	外部評価	B
外部評価内訳	A：2人	B：3人	C：0人	D：0人	E：0人	
委員からの意見や改善点など	A	・本事業の方向性をより明らかにし、食育事業が村の活性化の一翼を担うような取り組みに進むことを提案する。 ・村民内での理解、実践のみならず、関連機関、団体、住民との協働・連携した事業に発展するよう期待する。 ・この地域でしかできない食の安全や健康増進もあると思うので、継続して行っていただきたい。 ・みかんなども含め、まだまだ紹介できる村の農産物にも着目しても良いのではないか。				
	B	・健康長寿を延ばすために、より多くの村民に広げていくことが必要である。 ・村民や関係団体などとの協働をより一層進めること。 ・活動自体がより一層広まるようにPR活動にも努めること。 ・学校教育などとの連携を踏まえた農業施策への展開の可能性も検討していただきたい。				

事業番号：2		事務事業名：ちびっこ老人憩いの広場維持管理事業	所管課：健康福祉課
事務事業の概要	事業の目的	幼児及び老人に適切な遊び場を与え、その健全な育成及び心身の健康を図ることを目的とする。	
	事業の内容	遊具設備等の維持管理	
	事業の対象	村民	

評価結果	内部評価 (自己評価)	D	内部評価 (政策評価)	D	外部評価	C
外部評価内訳	A：0人	B：0人	C：5人	D：0人	E：0人	
委員からの意見や改善点など	C	・子どもが一人でもいる限り、必要であるのかもしれない。 ・廃止等を行う場合は、地域によって状況も違うため、地域の理解のもとに行うべきである。 ・利用のない広場の廃止も含めて考えながら、残すにしても管理がしやすい形にするといった検討も必要である。 ・防災広場としての活用など今後のあり方についても見直すこと。 ・地域の利用実態を把握した上で、廃止も含め活用方策を検討すること。 ・地域別に協議の上、用途の変更や廃止などの見直しが必要である。				

事業番号：3		事務事業名：海外留学体験事業	所管課：教育課
事務事業の概要	事業の目的	次代を担う中学生を海外に派遣し、その国の人々との交流を通じて、異文化理解を深めさせるとともに、語学力向上の機会を与え、国際化時代に対応できる人材の育成を図ることを目的とする。	
	事業の内容	村立中学生を対象に、夏季休業日中に、ホームステイによる現地での生活体験・住民との交流、現地校での授業参加、現地中学生との交歓・交流を行う。	
	事業の対象	村立中学生（第2・第3学年）	

評価結果		内部評価 (自己評価)	B	内部評価 (政策評価)	B	外部評価	B
外部評価内訳		A：2人	B：3人	C：0人	D：0人	E：0人	
委員からの意見や改善点など	A	・せっかくの素晴らしい取り組みであるので、続けていただきたい。 ・弱小のこの村でこういった取り組みをすることは、非常に特殊なことであるが、あえて特殊な事に重点を置いて少ない財源をさくことをしなければ、村の生き残りにはならない。 ・国際化時代といわれる現代において、注目される取り組みであるので、ぜひ続けてほしい。 ・募集枠を高校生まで広め、また定員に満たない場合は2次募集をかけ、一度参加した者も可能とするなどの手法も良いのでは。					
	B	・参加者の拡大に向け、検討する必要がある。 ・事前研修の縮小や、現地の英語レッスンをより平易なものにする、滞在日数の減少など、行程の見直しも考えてはどうか。 ・まだ2年目なので、何とか継続可能な手立てを探っていただきたい。 ・行けなかった子、行かなかった子が英語に関して怖気づかないようなサポートが必要である。 ・アンケートで「まだわからない」というこの背中を押す支援を事前に行えないか。 ・既参加者の経験や感想を全体で共有化する方法も検討すること。					

7. 今後の課題と改善への提言及び要望

①今回実施した外部評価制度に対するご意見

(ア) 選定された評価対象事務事業について

- ・選定された対象事業については、事業の効果、制度制定時からの状況の変化、住民ニーズなどで課題を抱えている事業であり、これらを第三者の外部評価委員会の議論の対象としているため、評価できる。

(イ) 事務事業評価調書や補足説明資料の内容について

- ・前年度までと比べ、向上してきており、評価できる。
- ・補足資料に若干の不適切な面があった。

(ウ) ヒアリング時における職員対応について（説明能力・質疑応答など）

- ・外部評価委員会も4年目に入り、手際よくなっている。
- ・真面目に自分の領域を担当されていると感じ満足したが、質疑の内容が不十分な場面もあり、少し理解しづらい箇所もあった。

(エ) 外部評価の進め方について（会議の進め方、時間配分など）

- ・前年度よりも向上している。
- ・時間配分等、議論を円滑に進めることができ、適切であった。

②今後の行財政運営やむらづくりにかかる改善策や提言

- ・全国的に地方再生が大きく掲げられているが、具体策となると困難な道であると思う。村の歴史を見直し、取っ掛かりとなるものを見つけられないだろうか。一つひとつを丁寧にこなしていくほか、道は見つからないのではないだろうか。村が発展することをお祈りします。
- ・人口減少が予想され、また、財政状況が厳しい千早赤阪村にとっては、「村民が主役、村はそれを補完する」ことを施策推進の柱とし、村民と村とが一体となって取り組む分野をありとあらゆる行政分野まで拡大し、他市町村にない魅力ある村づくりに取り組むことが必要であろう。